

長期ステロイド使用と複数医療機関受診後、8 か月で職場復帰した成人アトピーの経過 (26 歳男性)

症例 ID：001-20-YT4 | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

小学校頃から大学2年頃までステロイド外用薬を使用し、症状が出るたびに塗布を繰り返していました。次第に外用薬が効きにくくなり、複数の医療機関で漢方薬やステロイドを併用しました。

自己判断でステロイドを中止すると、全身の落屑、乾燥、浸出液が強くなり、入院治療も受けました。その後再びステロイドを使用しましたが、改善の見通しが得られず、1998年2月8日に松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	小学校頃から顔や体の湿疹にステロイド外用薬を使用しました。
製品名	製品名不明の外用薬、SOD 配合軟膏に混合されたステロイドです。
強度	複数の強度を使用しました。
使用期間	小学校頃から大学2年頃まで、その後も断続的に使用しました。
中止時期	1998年2～3月に中止しました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
小学校頃～大学2年頃	来院前	ステロイド外用薬を長期間使用しました。
大学2年頃以降	治療変更	外用薬が効きにくくなり、複数の医療機関を受診しました。
自己中止後	急性悪化	全身の落屑、乾燥、浸出液が強くなり、入院しました。
1998年2月8日	初診	松本医院を受診しました。
1998年3月8日	治療開始	休職し、従来の外用薬を中止して治療に専念しました。
開始2～3か月	皮膚の変化	皮膚のしっとりした状態が戻り、眉毛が生え、強いかゆみの間隔が長くなりました。
開始約8か月	職場復帰	アトピーを意識することが少なくなり、会社へ復帰しました。

4. ピーク時期

ピークは、自己判断でステロイドを中止した後に全身の皮膚が剥がれ、強い乾燥と浸出液が続き、鏡を見ることや日常生活が大きな負担となった時期です。

5. 困りごと

- 全身の落屑と浸出液が続き、入浴を一日に何度も行いました。
- 外見の変化と先の見えない経過への不安が強くなりました。
- 治療に専念するため休職しました。

6. 経過のまとめ

治療開始2～3か月頃から皮膚のつっぱりが軽くなり、眉毛が生え、強いかゆみが起こる間隔も長くなりました。開始約8か月後にはアトピーを強く意識せず過ごせるようになり、会社へ復帰しました。

本ページは患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の結果を保証しません。